



群馬県立県民健康科学大学 大学院

Gunma Prefectural Graduate School of
Health Sciences 2015

PURSUIT





学長 土井邦雄

近年、医療技術の高度化・専門化の動きは著しく、また、県民の医療に対する需要も多様化が進む中、看護職における院内教育指導者の養成や診療放射線学分野における高度な知識・技術を持つ人材の養成に対する期待が高まっております。

こうした動向を踏まえ、本学では地域の保健医療水準の向上に寄与することを目的に、平成21年4月に大学院(修士課程)を開設し、今年4月には第六期生が入学しています。

大学院は、看護学・診療放射線学の理論及び応用の教授・研究を通じてより高い専門性を有し、指導的役割を担う人材を育成し、もって地域社会における健康と福祉の向上及び看護学・診療放射線学の発展に寄与します。

具体的には、大学院に看護学研究科及び診療放射線学研究科を置き、看護学研究科では、医療機関等における院内教育や管理にあたり実践的指導者となる人材、診療放射線学研究科では、CT・MRI・重粒子線治療など高度化が進む医療機器に対応した高度な知識・技術を持つ人材など、医療現場を支えるリーダーとなる人材の育成を図ります。

このため、社会人にも広く門戸を開き、職業を持つ方々のための社会人入試や、入学後も仕事を続けながら計画的に授業を受けられるよう、昼夜開講、集中講義等の多様な授業方法を展開しています。

皆様の入学を心よりお待ちしております。

大学院のプロフィール

看護学研究科 看護学専攻(修士課程)

入学定員	修業年限	学 位
8名	2年※	修士(看護学)

※最長4年まで長期履修可

医療機関などで院内教育や管理に携わる実践的指導者となる人材を育成

診療放射線学研究科 診療放射線学専攻(修士課程)

入学定員	修業年限	学 位
3名	2年※	修士(放射線学)

※最長4年まで長期履修可

CT・MRI・重粒子線治療など高度化が進む医療機器に対応した高度な知識・技術を持つ人材を育成

地域の保健医療水準の向上に寄与します。

社会人の積極的な受入れ

- ▶ 入学試験では、社会人特別選抜試験を実施します。
- ▶ 夜間にも授業を開講し、仕事を続けながら修学できるよう配慮します。
- ▶ 2年間相当の授業料のまま、修業年限を最大4年まで延長できる長期履修制度を設けています。
- ▶ 短期大学、専門学校、各種学校の卒業者に対しても入学試験の出願資格を付与※します。
※本学が行う審査により、大学卒業者と同等以上の学力があると認められた方が対象。
- ▶ 科目等履修生となり、入学前に単位を取得することもできます。

看護学教員としての キャリア発達を目ざして学ぶ。



Voice 在学生の声 前川貴子 看護学研究科看護学専攻 看護教育学領域 (H25入学)

私は現在、職場である看護専門学校の休職制度を利用し、大学院の学習に専念しています。私が大学院に進学した理由は、教員として経験を積み重ねたものの、自己の実習指導に自信が持てずいたからです。学生の支援がうまくできないことがあっても、その現象を説明できなかったり、自己の実習指導の課題を明確にできず、改善の方向性を見出せずにいました。そこで、看護教育学に関する専門的知識を学び、根拠を持って指導できるようになりたいと思い大学院に進学しました。大学院の授業を通して複数の看護学実習に関する研究成果に出会いました。得られた学習成果の1つとして、これらの研究成果を活用し、これまでの自己の実習指導を振り返り、学生の主体的な学習を効果的に支援できていないことに気づきました。現在、修

士論文として、実習中の学生の主体的な学習を支援するために必要な教授活動に資する研究に取り組んでいます。大学院での授業は、様々な経験を持つ大学院生とのディスカッションや先生方からの助言を受け、多様な考え方に触れることができます。授業の前の自己学習のみでは理解できなかったことが、ディスカッションを通して理解が深まり、授業終了後も盛り上がり、大学院生同士でさらにディスカッションを続けることも度々あります。職場の理解を得、学業に専念できる貴重な機会をいただき、本当に幸せな時間を過ごしていると実感しています。質の高い看護・教育実践の実現に向け、これまでのご自身を見直し、看護職としてより良くなるために学ぶ時間を過ごしてみませんか。

看護学研究科 看護学専攻

Graduate School of Nursing, Department of Nursing

科学的根拠に基づく実践(Evidence-Based Practice)の実現を目的とし、より質の高い看護を提供するための教育・研究ができる人材及びスタッフ・ディベロップメント(SD)とファカルティ・ディベロップメント(FD)を支援できる人材の育成を目指します。



実践看護学構築論Ⅰの授業風景

特色

看護学研究科は、我が国の看護系大学院で初めて、院内教育をコーディネートできる看護職者、つまりスタッフ・ディベロップメント(SD)を担える人材や、大学や専門学校など看護職養成機関の看護学教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)を支援できる人材の養成を目指した「看護教育学領域」を設置している点が大きな特色です。

- 看護学研究科に実践看護学領域及び看護教育学領域を置きます。
- より質の高い看護を提供するための教育及び研究を展開します。
- 院内教育を企画し実践できる能力を養う教育及び研究を展開します。
- 看護学教員の教育能力を養うための教育及び研究を展開します。

教育研究領域と担当教員

領域	教員名	主な研究課題
実践看護学領域	教授 肥後すみ子	看護技術学に関する研究課題
	教授 行田 智子	妊産期・産褥期・育児期にある人とその家族への看護に関する研究課題
	教授 横山 京子	小児期にある人々への看護、小児看護学教育に関する研究課題
	教授 田村 文子	思春期・青年期にある人々、精神障害を持つ人々への看護に関する研究課題
	教授 中西 陽子	がん及び他疾患の急性期・慢性期・終末期にある成人期の人々とその家族への看護に関する研究課題
	教授 小川 妙子	老年期にある人々への看護、老年看護学教育に関する研究課題
看護教育学領域	教授 齋藤 基	地域看護活動、在宅看護に関する研究課題
	教授 巴山 玉蓮	看護政策管理に関する研究課題
	教授 松田 安弘	看護基礎教育・継続教育に関する研究課題
	教授 山下 暢子	看護学実習中の学生に関する研究課題
	教授 吉富美佐江	新人看護師教育、看護学実習中の教授活動に関する研究課題

看護学研究科 授業科目

実践看護学領域

専門科目(必修)
3科目12単位を履修
実践看護学構築論Ⅰ [2単位]
実践看護学構築論Ⅱ [2単位]
看護学演習(実践看護学展開論) [8単位]
特別研究
特別研究 [12単位]
専門科目(選択)
共通科目と合わせ8単位を履修
看護教育学Ⅰ [2単位]
看護教育学Ⅱ [2単位]
看護学研究方法論Ⅰ [2単位]
看護学研究方法論Ⅱ [2単位]
看護政策管理論 [2単位]

看護教育学領域

専門科目(必修)
3科目12単位を履修
看護教育学Ⅰ [2単位]
看護教育学Ⅱ [2単位]
看護学演習(看護教育学研究) [8単位]
特別研究
特別研究 [12単位]
専門科目(選択)
共通科目と合わせ8単位を履修
実践看護学構築論Ⅰ [2単位]
実践看護学構築論Ⅱ [2単位]
看護学研究方法論Ⅰ [2単位]
看護学研究方法論Ⅱ [2単位]
看護政策管理論 [2単位]

修了要件
本研究科に2年以上在籍し、所定の単位(32単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験(口頭試験)に合格することが要件です。

履修方法
実践看護学領域又は看護教育学領域のいずれかを専攻とし、専攻に関連する専門科目3科目12単位と、特別研究12単位を必ず履修し、それ以外の8単位は専門科目(選択)又は*印の両研究科共通科目から選択履修します。この他、修了単位には加算されませんが、*印のない両研究科共通科目を自由科目として履修することができます。なお、年間の履修単位数は24単位(集中講義及び特別研究は含めない)を上限とします。

両研究科共通科目(看護学研究科・診療放射線学研究科)

*専門職教育展開論Ⅰ [2単位]
*専門職教育展開論Ⅱ [2単位]
*研究と倫理 [2単位]
*教育と倫理 [2単位]
保健医療特論 [2単位]
保健医療安全学特論 [2単位]
診療放射線学特論 [2単位]
放射線医療統計解析学 [2単位]
放射線画像解剖学特論 [2単位]
画像診断学特論Ⅰ [2単位]
画像診断学特論Ⅱ [2単位]
放射線学シミュレータ特論 [2単位]

診療放射線学研究科 診療放射線学専攻

Graduate School of Radiological Technology, Department of Radiological Technology

特別研究を通じて、診療放射線学の発展に貢献しつつ高度医療専門職者、研究者及び教育者としての基礎的能力を持つ人材を育成します。



放射線管理計測学特論の授業風景

特色

診療放射線学研究科は、我が国で唯一の「診療放射線学専攻」を基盤とし、放射線画像検査学、放射線治療学等の臨床に即した学術研究を積極的に行うことにより、人々の健康支援、疾病の早期発見、治療効果の向上に寄与する人材を育成するとともに、診療放射線学のさらなる発展に貢献します。

- 診療放射線学研究科に放射線画像検査学分野及び放射線治療学分野を置きます。
- 画像処理並びに画像解析技術の育成に重点を置いた教育及び研究を展開します。
- 画像評価並びに読影能力の育成に重点を置いた教育及び研究を展開します。
- 重粒子線治療プロジェクト等に参画可能な研究能力を養う教育及び研究を展開します。
- 群馬大学との大学院教育研究連携により、群馬大学大学院医学系研究科の一部の科目が受講できます。

教育研究領域と担当教員

分野	教員名	主な研究課題
放射線画像検査学	教授 上原 真澄	造影検査におけるマイクロデバイス開発に関する研究課題
	准教授 倉石 政彦	診療放射線技術職に関する研究課題
	教授 小倉 敏裕	診療放射線画像の解析に関する研究課題
	教授 小倉 明夫	磁気共鳴画像及びMRI検査に関する研究課題
	准教授 長島 宏幸	医用画像処理技術に関する研究課題
	講師 林 則夫	画像診断検査法及び医用画像解析に関する研究課題
	教授 下瀬川正幸	医療画像情報学及び診療放射線学教育に関する研究課題
	准教授 星野 修平	放射線情報システム学に関する研究課題
	教授 柏倉 健一	脳機能測定に関する研究課題
	准教授 高橋 康幸	トレーサー情報解析に関する研究課題
	教授 青木 武生	培養細胞の膜輸送に関する研究
放射線治療学	准教授 根岸 徹	放射線診断装置に関する研究課題
	准教授 堀 謙太	コンピュータシミュレーションによる診療放射線学の疑似体験型教育に関する研究課題
	准教授 大野由美子	放射線物理学、放射線計測学に関する研究課題
	講師 五十嵐 博	診療放射線部門におけるリスクマネジメントに関する研究課題
	教授 河原田泰尋	診断領域における放射線計測に関する研究課題
	准教授 杉野 雅人	環境放射線(能)計測および管理・防護に関する研究課題

診療放射線学研究科 授業科目

放射線画像検査学分野

専門科目 6単位以上を履修
磁気共鳴学特論 [2単位]
造影検査学特論 [2単位]
放射線画像技術学特論 [2単位]
放射線画像解析学特論Ⅰ [2単位]
放射線画像解析学特論Ⅱ [2単位]
機能画像学特論 [2単位]
核医学検査技術学特論 [2単位]
医療画像情報学特論 [2単位]
特別研究
診療放射線学特別研究 [12単位]

放射線治療学分野

専門科目 6単位以上を履修
放射線治療学特論 [2単位]
先端放射線治療学特論 [2単位]
放射線生物学特論 [2単位]
放射線管理計測学特論 [2単位]
放射線安全管理特論 [2単位]
特別研究
診療放射線学特別研究 [12単位]

修了要件
本研究科に2年以上在籍し、所定の単位(30単位以上)を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験(口頭試験)に合格することが要件です。

履修方法
放射線画像検査学分野又は放射線治療学分野のいずれかに所属し、所属分野の専門科目から6単位以上と、特別研究12単位を必ず履修し、残りの12単位は他の専門科目(所属分野以外の専門科目を含む)又は両研究科共通科目から選択履修します。なお、年間の履修単位数は24単位(集中講義は含めない)を上限とします。

診療放射線学研究科両分野共通科目

核医学治療特論 [2単位]

スキルアップを目指して。



Voice 在学生の声 伊勢崎市民病院 診療放射線技師 北爪翔太 診療放射線学研究科診療放射線学専攻 放射線治療学分野 (H25入学)

大学を卒業してから数年が経ち、診療放射線技師としての臨床経験を積んできました。この中で感じた日々の疑問に対して、問題解決能力を養い、更なるスキルアップを目指し、それらを臨床に還元できるよう大学院入学を決意しました。私は、有給休暇や当直の明け、仕事終わりを組み合わせながら大学院に通う方法をとっています。1年次においては、講義などを通して、文献検索および英語論文の輪読、プレゼンを通して、研究を行う上での基礎的技術を養えるよう、四苦八苦しながら一年が過ぎました。私は、「放射線治療計画装置における線量計算アルゴリズムの検証」というテーマのもと、日々研究に取り組んでいます。放射線治療における線量は、患者の病を制御できる反面、正常に致命的な

傷害を与えかねない、諸刃の剣となり得ます。したがって、治療の質を担保する上でも、線量に関する厳密な品質管理、検証が必要となります。それにより、治療効果および患者のQOLの向上が望めると考えます。大学院では、様々な分野において研究者として先人である先生方のもとで学び視野を広げ、また、アドバイスを頂くことでより客観的な研究が可能となると考えます。これから、論文作成や学会発表など様々な経験を積み、研究者としてはじめの一步を踏み出すことになるわけですが、いつまでも探究心を持ち続け、努力を怠らずスキルアップをしていければと思います。

■ 大学院学生募集要項(願書含む)の請求方法

テレメール(インターネット・自動音声応答電話)でご請求ください。

① パソコン・スマホ・ケータイ、電話でアクセスしてください



パソコン・スマホ・ケータイなら
<http://telemail.jp>



バーコード



自動音声応答電話なら

IP電話 **050-8601-0101**

② 大学院学生募集要項の資料請求番号を入力してください

資料名	資料請求番号	料金(送料含む)	発送開始日
大学院学生募集要項(願書含む)	589480	215円	5月20日

※料金はお届けする資料に同封されている支払方法に従い、表示料金をお支払いください。(支払いに際して手数料が別途必要となります。)料金は資料の重量変更により変更になる場合がありますので予めご了承ください。

③ ガイダンスに従ってお届け先等の登録を行ってください

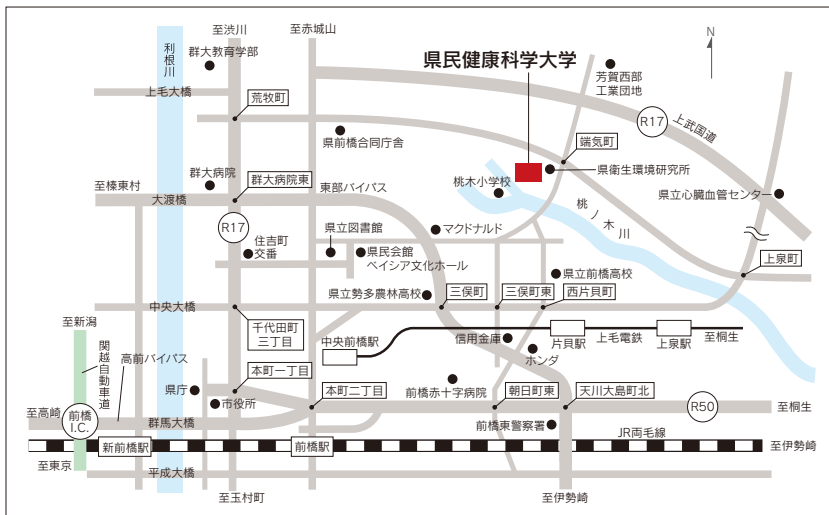
テレメールをご利用済みの方はお届け先の登録は不要です。

請求してから2~3日後に資料が届きます

※発送開始日以前に請求された資料は予約受付となり、発送開始日になりましたら一斉に発送されます。その際は、発送開始日から2~3日後に資料が届きます。

次の各窓口でも請求できます。

県民健康科学大学事務局・群馬県庁 2F 県民センター・群馬県行政県税事務所
群馬県(保健)福祉事務所



access

[公共交通機関]

- JR「前橋駅」北口6番乗り場、永井バス小坂子、または荻窪公園行き「県民健康科学大学前」下車
- 上毛電鉄「片貝駅」から徒歩約15分

[自動車]

- 関越自動車道前橋I.C.から約20分



群馬県立県民健康科学大学大学院
Gunma Prefectural Graduate School of Health Sciences

〒371-0052 前橋市上沖町323-1 Tel.027-235-1211(代表) Fax.027-235-2501

URL <http://www.gchs.ac.jp> E-mail: info@gchs.ac.jp